
『生徒会役員共も妹も女子大生家庭教師（の生徒達）も思春期』

赤城晴信

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

『生徒会役員共も妹も女子大生家庭教師（の生徒達）も思春期』

【Nコード】

N7505X

【作者名】

赤城晴信

【あらすじ】

『妹は思春期』『女子大生家庭教師濱中アイ』『生徒会役員共』を強引に一つにしたまったく日常下ネタショートストーリーです

舞台解説

『妹は思春期』『女子大生家庭教師濱中アイ』『生徒会役員共』
を強引に一つにしました。

二年生に

天草シノ

七条アリア

城島シンジ達

一年生に

津田タカトシと桜才の同級生達

小久保マサヒコと仲間達

思春期妹組

と配置しました。

かなり強引に一つにしたので色々粗があるかもしれませんがどうか
まったりとご覧ください。

恋愛絡みは基本的に同じ作品のキャラ同士でやります

小久保君↑天野ミサキ、的山リンコ、若田部アヤナ

津田タカトシ↑天草シノ、七条アリア、萩村スズ

城島シンジ↑黒田マナカ、矢野アキ、城島カナミ？

基本は生徒会役員共のストーリーをメインに進む……かも

1話（前書き）

まったりゆったり過度の期待はしないでください

1話

『生徒会役員共も妹も女子大生家庭教師（の生徒達）も思春期』

私立、桜才学園。本来女子高だった学校が数年の休学を経て男女共学となったこの高校。

共学一年目の去年は男子生徒数驚愕の三人、今年はそれよりももう少しばかり増えたようだ。

「その男子生徒!」

溢れんばかりの女子生徒の仲、ダラダラと登校をする一人の男子生徒に声が掛かる。

どうやら声を掛けたのは生徒会役員のようで、男子生徒は色々絡まれた後に強引に生徒会役員の一人にさせられてしまったようだ。

その様子を二人の学生が見ていた。

「相変わらず、強引だなうちの会長」

「可愛いからセーフだろ、うちの生徒会役員は皆可愛いよなあ。パンツくれないかなあ」

「おはよ城島君、あと相変わらずキモいわねカズヤ」

「おはよう今岡、カズヤは放っておいてくれ」

城島シンジと新井カズヤ、今年の数少ない男子生徒の二人であり、今日の前で一年生の男子生徒を勧誘している生徒会長と同じ二年生である。

その彼に声を掛けたのが今岡ナツミ、彼らのクラスメイトだ。

「城島君、妹さんとは一緒じゃないの?」

「今日は珍しくカナミが寝坊してたから先に置いてきた。高校生にもなって一緒に登校もどうかと思うしな」

今岡にキモイと言われたカズヤはハアハアと荒い息で恍惚の表情を浮かべている。二人はシカトして下駄箱にと向かった。

その横を小さな女生徒が走って通り過ぎて行く。

「小久保くーん！ おはよー！ あ、 ミサキちゃんも！」

「おはよう的山、 あんまり走りと転ぶぞ」

「おはようリンちゃん、 今日は迷わなかった？」

「うんばっちりー！ ……とは行かなくて途中でアヤナちゃんに助けて貰ったんだ」

「どうやら、 中学からの知り合いであるような集まり、 小久保マサヒコを中心とした集まりで、 一緒に登校して来た幼馴染の天野ミサキ、 一際背が小さく眼鏡っ子の山リンコ、 リンコの後から少し遅れて歩いて来た若田部アヤナ。 皆仲良く桜才学園にと進学して来ていた。」

「しかし、 本当に良かったのか若田部、 直前までアメリカ留学と桜才で迷ってたけど……」

「だから何度も問題無いと言ってるでしょ！ 別に小久保君の為に桜才に來たって訳じゃないんだからね！ 桜才は進学率だって良いし！ それにお父さんも無理にアメリカについて来なくて良いと言ってくれたし！」

「絵に描いたようなツンデレってやつだねー」

アヤナとマサヒコのやり取りをリンコがニコニコと笑って聞いている。

「わ、 私はツンデレってやつがよく分からないかな……あれ？ 天草先輩！？」

アヤナとリンコも輪に入り、 四人で同じく下駄箱に向かう、 途中でミサキが生徒会長を見つけて声を掛ける。

「ん……？ ああ！ ミサキか！？ 久しいなあ！？ おお小久保まで一緒か！」

「児童会長！？ 桜才だったんですか！？」

「ふふふ、 今は児童会長ではなく生徒会長だ！ おしいな、 もう少し早く来ていれば小久保やミサキの杵もあったのだが、 今生徒会はこの新一年生萩村スズに津田タカトシを加えて満席になってしまったのだ」

「……いや俺は辞退でも構わないんですが」

「私は一応昨日の入学式後から生徒会に入ってますけど」

萩村スズと呼ばれた少女を見て誰もが「小さ!」と言う言葉を飲み込んだ。

「いや、もう決まっちゃったしな。なあアリア」

「そうねえ、所でこの既にハーレムを作っている新入生の子はシノちゃんのお友達?」

生徒会長天草シノと書記の七条アリア。その二人に捕まっているのがマサヒコと同じ数少ない男子生徒津田タカトシだ。

「うむ、オナシヨーなんだ。別にオナシヨーと言ってもオナニシヨーの事では無く同じ小学校と言う意味だぞ!」

「誰も間違わねえよ!」

「(……中村匂がするな)」

シノの言葉に早速タカトシがツツコミを入れる。マサヒコは無表情で昨年まで自分の家で家庭教師をしていていた女性の先輩を思い浮かべていた。

「天野ミサキです。天草先輩は昔から年下の子が好きですもんね」

「な、何を言うかミサキ! それより、お前は小久保とどうなんだ!? まさかもう!?!」

親指を人差し指と中指の間に挟み込むいわゆるナニのポーズをミサキの前に出すシノ。

「相変わらず下品ですよ天草先輩! マサく……小久保君とは何もありません!」

「いいんだぞ? 昔みたいにマサくんマサくん言っても。あ、

だが桜才学園は一応恋愛禁止だから上手くやるんだぞ!」

「……小久保マサヒコです」

「……津田タカトシです」

勝手に盛り上がっている女子陣の横で、何か感じる物がある野郎二人が挨拶を交わす。きっと自分達はこの学園で大変な目に合うだろうと直感的な何かが告げていた。

「お兄ちゃん！」

その時、盛り上がっていた一行を遮るように、大きな声で下駄箱にと走って行く少女達。

「早いよー！一緒にイクって行ったのにー！お兄ちゃんの早漏！早過ぎるよー！」

「そうですよ！お兄さんの早漏！でもカナミちゃん、お兄さんみたいにオナニーばかりしていると遅漏の可能性がありますよ？」
「（シカトしよう）」

大声で自分の早漏遅漏談義をする妹とその幼馴染がこちらに向かって来るのを見て、城島シンジは逃げるように教室に向かった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7505x/>

『生徒会役員共も妹も女子大生家庭教師（の生徒達）も思春期』

2011年10月20日01時09分発行